

## (報告) 第201回鶴見川舟運復活プロジェクト定例会

日時：令和7年1月25日(土) 18時から

場所：新羽地域ケアプラザ4F

### 経過

12月29日、水マス推進サポーター令和6年度活動報告書を、ふれあって流域鶴見川実行委員会へ提出しました。担当：内山さん。

1月1日、『タウンニュース』港北区版に、注連引き百万遍の記事と、鶴見川舟運復活プロジェクトの年始広告が掲載されました。

1月1日～、本会が制作に全面協力して完成した、横浜ミストリー「鶴見川舟運物語～河岸がつかないだ流域のくらし～」の放送がYOUテレビ等で始まりました(1月31日までの予定)。会員の伊藤幸晴さんが制作。

### 本日の予定

議題 ① 今年度の残り事業と活動報告の提出について

領収書等について

①②について、次回も討議します

② 来年度の申請について

舟による自然観察会、米づくりなどの事業を中心として

TRネットさんと、事業連携について打合せをします

③ その他、連絡事項など

企画展「運河で生きる」1月18日～4月13日、横浜都市発展記念館

会員の倉見さんご逝去、遺品のTシャツを希望者にお渡しします

ハマ建『公開授業』、新羽中学で2月18日(火)9:50～11:30

新羽小にあった舟運のゴムボート、南町内会館で保管中とのこと


新会員宇秋(うしゅう)さんが参加されました

話題提供 横浜ミストリー「鶴見川舟運物語～河岸がつかないだ流域のくらし～」の上映

### 次回の日程

(第202回) 令和7年2月22日(土) 18時から ◎日程を変更しました

場所：新羽地域ケアプラザ4F



わら蛇を手にする西方寺の伊藤住職

### 「わら蛇」通し、地域見守る

伝統行事「注連引き百万遍」

今年が巳年。へしは脱皮することから「復活と再生」を連想し、不老不死や強い生命力につながる縁起の良い動物と考えられている。区内で、そんなへしにまつわる話をひこう。

新羽町の中久保という地域には「注連引き百万遍(しめびきひゃくまんべん)」という行事がある。これは約240年前に天明の大飢饉が起こり疫病が流行した際に村人たちが「わら蛇」を作って祈り、疫病退散したことから、以降、毎年

新羽町の西方寺では毎年、保存会の人たちがわら蛇を作り、近隣にある新羽小学校や新羽中学校などの校門付近に飾り、子どもたちの健康や登下校の安全を祈願している。また保存会や保護者の指導のもと、同小の3年生が小さなわら蛇を一人一匹作り、地元の文化に触れる機会にしている。西方寺の住職で、保存会の会長を務める伊藤仁海さんは「わら蛇を触ること自体、子どもたちにとって貴重な体験。伝統の行事を継続していった」と話す。

新羽町の西方寺では毎年、保存会の人たちがわら蛇を作り、近隣にある新羽小学校や新羽中学校などの校門付近に飾り、子どもたちの健康や登下校の安全を祈願している。また保存会や保護者の指導のもと、同小の3年生が小さなわら蛇を一人一匹作り、地元の文化に触れる機会にしている。西方寺の住職で、保存会の会長を務める伊藤仁海さんは「わら蛇を触ること自体、子どもたちにとって貴重な体験。伝統の行事を継続していった」と話す。

次世代に継承

新羽町の西方寺では毎年、保存会の人たちがわら蛇を作り、近隣にある新羽小学校や新羽中学校などの校門付近に飾り、子どもたちの健康や登下校の安全を祈願している。また保存会や保護者の指導のもと、同小の3年生が小さなわら蛇を一人一匹作り、地元の文化に触れる機会にしている。西方寺の住職で、保存会の会長を務める伊藤仁海さんは「わら蛇を触ること自体、子どもたちにとって貴重な体験。伝統の行事を継続していった」と話す。

新羽小でのわら蛇づくり

『タウンニュース』港北区版1月1日号より